

実験計画法(DoE)ソフトウェア・多変量解析(MVDA) オンライントレーニングのご案内【有料】

貴社、貴所 益々御清祥の段 お喜び申し上げます。
また平素より格別のご愛顧を賜り、誠に有難うございます。

DoE やMVDA の第一線を走るソフトウェアメーカー、Umetrics 社のソフトウェアシリーズを Sartorius Stedim Biotech のソリューションとして提案させていただきます。

つきましては以下のお客様に向けて専任講師によるオンライントレーニング（有料）の開催を予定しております。

- DoE やMVDA の導入をご検討中のお客様
- すでに使用されており、新たな機能や活路を見出したいお客様

慣れ親しんでいただくことを主眼に実際のソフトウェアを使用していくつかの例題に取り組む実習(Hands-on) 形式のセッションがメインとなっております。

ぜひこの機会に網羅的な実験の計画をアシストする DoE ソフトウェア「MODDE」と多くのバッチデータからデザインスペースの定義をサポートするソフトウェア「SIMCA」の特質や利便性をご確認ください。

参考URL：[QbD and DOE Software | Sartorius](#)

MODDE

MODDE は品質や性質の変動に起因するいくつかのパラメータの関連性などを網羅的に調査するための 実験計画の作成をアシストするソフトウェアとなります。

最終的にお客様が行う実験数を減らすことができ、早期の最適解への到達が可能となります。

本ソフトウェアはスタンドアロンで 사용할 수 있지만弊社のアンバーシステムなどマルチパラレルな装置との併用でより特性を発揮することができます。

SIMCA

膨大な情報量が含まれるバッチデータをさらに複数において解析することは非常に時間と労力を要します。 SIMCAはプロセスの状況の全体像を、数クリックで確認できます。

なぜ、バッチ A はうまく進み、バッチ B は想定よりも収量が得られなかったのかを視覚的に理解することが可能となります。

多くのデータを用いることでデザインスペースの定義が容易となり、高い品質を得るための重要な足がかりを掴むことができます。

■日時

第1回 MODDE(DoE)

2022年5月16日(月)、17日(火) 2日間

9:00 - 16:00

第2回 SIMCA(MVDA)

2022年8月17日(水)、18日(木) 2日間

9:00 - 17:00

■セッションの形式

Day 1

AM (9:00 - 12:00) 概要・原理などの説明

PM (13:00 - 16:00) 実習その1

Day 2

AM (9:00 - 12:00) 実習その2

PM (13:00 - 16:00) 追加実習、ラップアップ

■お申し込み方法・受講料について

以下のアドレスに直接お問い合わせください。

SalesSupport.BPS-Japan@Sartorius.com

■定員

8名

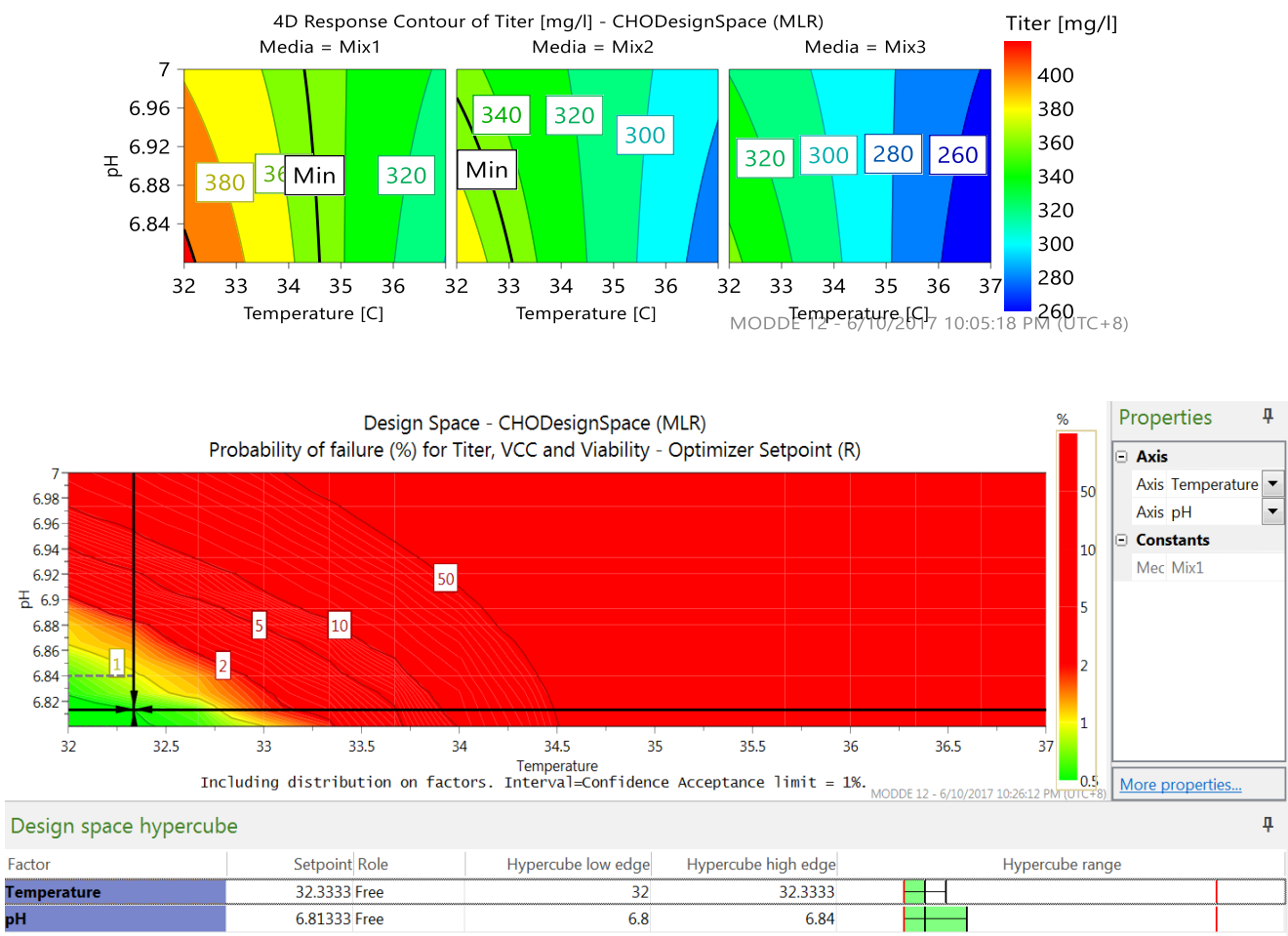
■開催方法

オンライン(Microsoft Teams 使用予定)で開催いたします。

ほかご質問やご不明な事項などがあればお問い合わせください。

以上

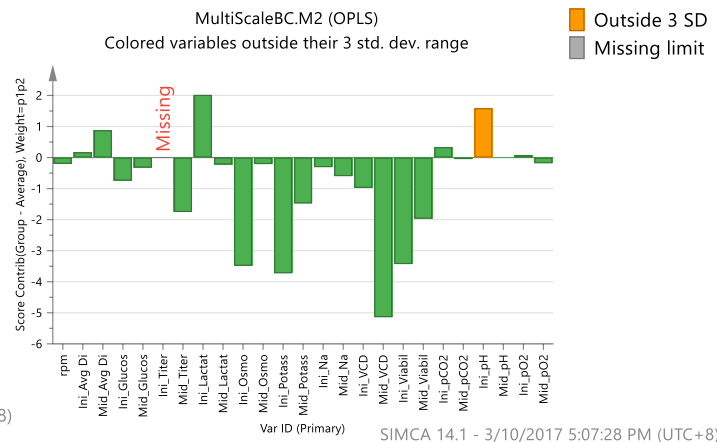
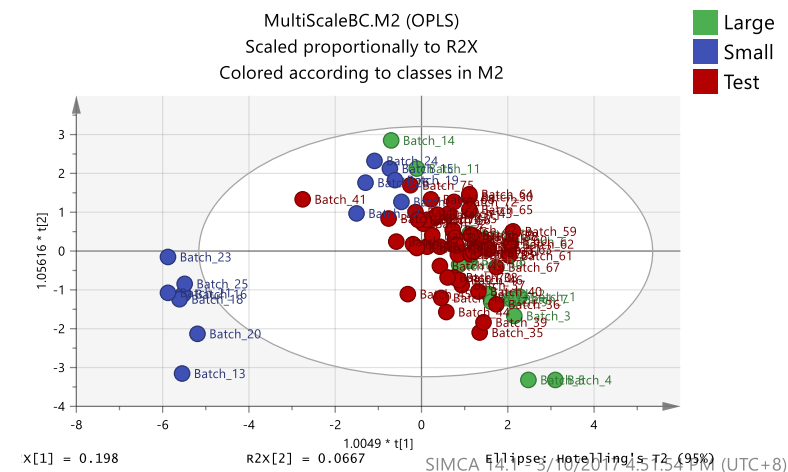
実験数を少なく、しかし最速で最適解に Umetrics MODDE (実験計画法ソフトウェア)



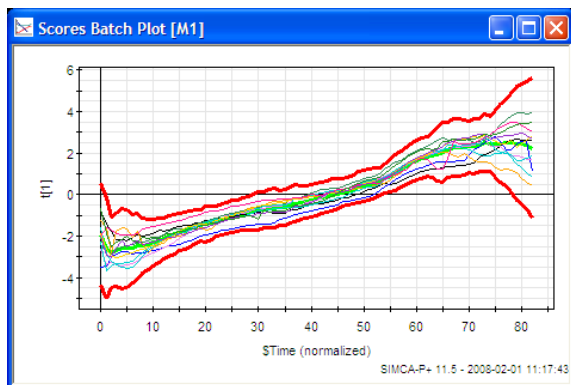
- 検討したいパラメータのリストやレンジから最小かつ効率的な実験の方法を提案
- 結果を可視化、またこれら結果を重ね合わせることですべてを満たすレンジを特定可能
- 特定したレンジの中からさらにエラーのリスクが少ない領域をデザインスペースとして提案
- さらにデザインスペースの中から一番堅牢なセットポイントを表示

膨大なデータを多角的に解析

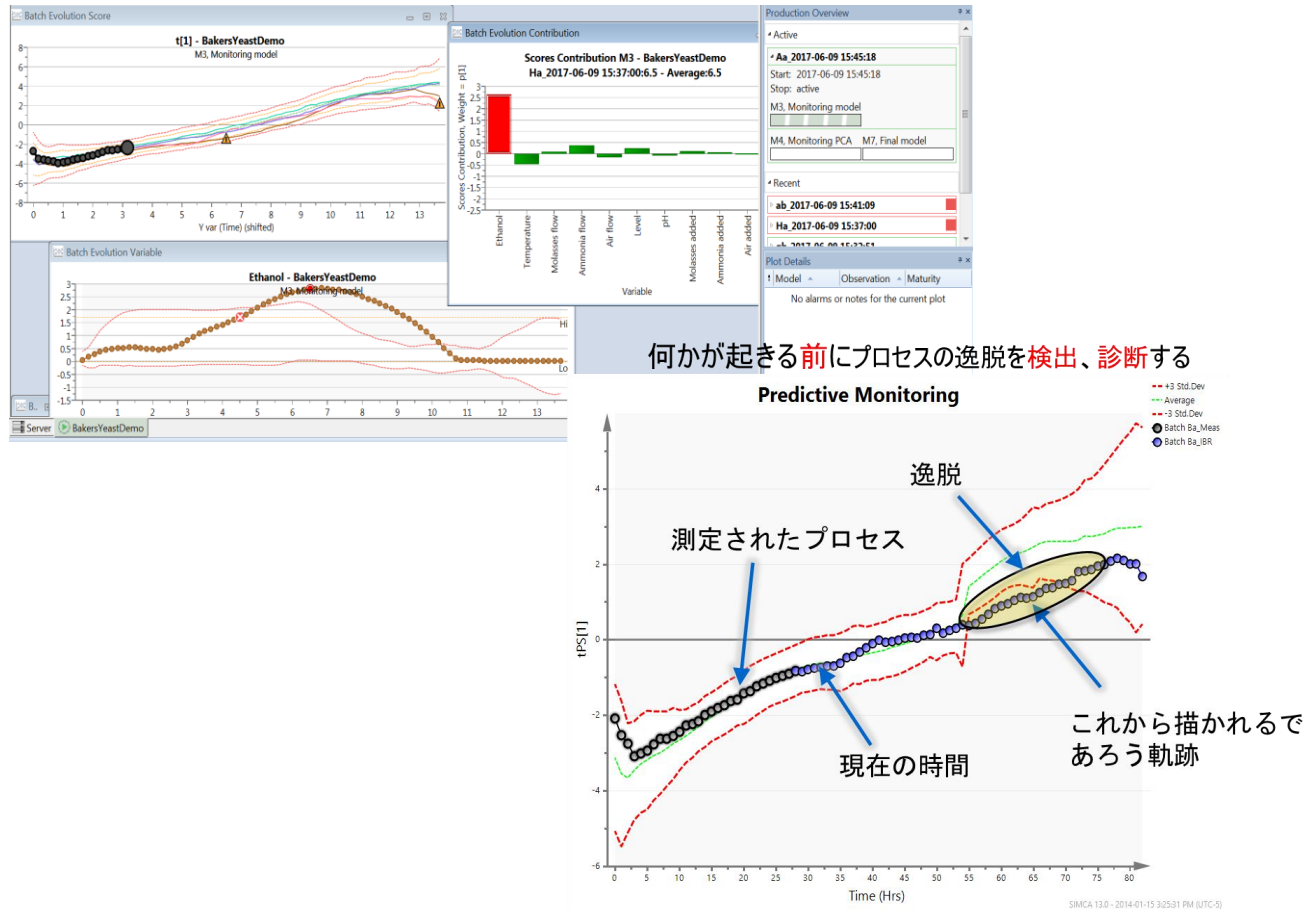
Umetrics SIMCA (多変量解析ソフトウェア)



- いろいろなフォーマットで出力される実験結果を時間軸をそろえてまとめて解析できる(抜けているポイントは外挿などして補完)
- 違いが際立つ見方から複雑な結果をグループ化、またグループ同士の関係なども図示
- 大集団から外れているグループに対して結果をブレイクしておくことで、どこに違いがあるか、何が影響しているかを棒グラフの上下や高さで理解を補助
- 最小5バッチからお客様のプロセスの理想のバッチ(ゴールデンバッチ)を描くことができます



SIMCAで得られたゴールデンバッチと比較してリアルタイムモニタリング Umetrics SIMCA-Online (多変量解析ソフトウェア)



- 装置からの様々なデータをリアルタイムに多変量解析して1プロットとして表示(横軸は時間経過)
- ゴールデンバッチと比較し、今の製造がどのような状況となっているかをリアルタイムで理解
- 結果を基に意思決定、適切な判断を迅速に実施可能
- 何が影響しているか、逸脱しているプロットをブレイクすることにより知ることが可能であり、適切な対処に貢献
- 均一な品質の確保、安定した収率の実現などバッチロスリスクを最小化